

## アスリート委員会名簿

役 職	氏 名	競 技
委員長	高橋 尚子	陸上競技
副委員長	河合 純一	水泳
委員	穴井 隆将	柔道
	池田 信太郎	バドミントン
	及川 晋平	車椅子バスケットボール
	大畑 大介	ラグビー
	小宮 正江	ゴールボール
	齋藤 里香	ウエイトリフティング
	菅原 智恵子	フェンシング
	杉山 愛	テニス
	関根 明子	トライアスロン
	高倉 麻子	サッカー
	田口 亜希	射撃
	土田 和歌子	陸上競技
	萩原 智子	水泳
	萩原 美樹子	バスケットボール
	廣瀬 隆喜	ボッチャ
	不老 安正	クレール射撃
	松永 共広	レスリング
	三浦 恵子	ホッケー
米田 功	体操/体操	

(2016年（平成28年）7月12日現在)

※網かけは本日付で着任された委員

## 「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」申請資料の概略

## 1. 「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」(以下、「ガイドライン」)とは

国際パラリンピック委員会(以下、IPC)が定める『IPC アクセシビリティガイド』(以下、IPC ガイド)の技術仕様や大会関係者向けトレーニングに関する項目と、国内関係法令等に基づき、アクセシビリティ協議会で大会の指針としてとりまとめ、組織委員会が IPC に承認を求めるもの。

東京 2020 大会の各会場のアクセシビリティに配慮が必要なエリアおよび動線と、そこへのアクセス経路のうちアクセシビリティに配慮が必要な観客の動線として組織委員会が選定するエリアと輸送手段、組織委員会による情報発信・表示サイン等のバリアフリー基準、ならびに大会スタッフ・ボランティア等をはじめとした関係者のトレーニング等に指針として活用する。

※ガイドラインには、その適用範囲となる個別の会場やアクセシブルルート、およびその中のエリアは規定しない。具体的な適用範囲は、対象施設関係者と組織委員会が個別協議して決定する。

※各会場の選手動線については、ガイドラインに加え、各競技で定められた技術要件も踏まえて整備する。

## 2. 検討経緯と今後のスケジュール

- 平成 26 年 11 月、検討のためのアクセシビリティ協議会を設立(内閣官房、東京都、組織委員会の共催)。
- 平成 28 年 6 月、障がい者団体を含む当事者団体の要望も踏まえ、関係行政機関、関係自治体、障がい者スポーツ団体、学識経験者と専門機関、関係業界団体等の参画を得て指針をとりまとめた。
- 会場等の設計に必要なハード面の一部基準については、平成 28 年 1 月、先行して IPC の承認を受け、ガイドライン「ハード編」暫定基準として関係者で情報共有済み。
- 「ハード編」に含まれない、サービスカウンター・エレベーター内部の操作盤・トイレ内部の諸設備等の配置基準、輸送機関に関わる指針、組織委員会による情報発信・表示サインの指針、大会スタッフ等のトレーニングの指針を追加し、先月、ひとつのガイドラインとしてとりまとめた。
- 7 月に組織委員会から IPC に申請。本年度内には IPC の最終承認を得て、その後一般公開を予定している。

## 3. 基準設定の考え方

- 数値基準は、IPC ガイドと関係国内法令等に基づき、以下のとおり整理した。

推奨基準	『東京都条例等による望ましい整備』および『IPC ガイド記載のベストプラクティス』の水準を総合的に勘案し策定。 →新設の会場、主要駅等のアクセシブルルートとして大会時に適用する範囲において、仮設対応を含めて、可能な限り実現を目指す。
標準基準	『IPC ガイドの遵守基準』、『国の推奨基準』、『国の遵守基準を上回る東京都条例等の整備標準(遵守基準/努力基準)』のうち、相対的に高いものを総合的に勘案し策定。 →既存の会場、多くのアクセシブルルートとして大会時に適用する範囲において、大会後の利用ニーズ等を勘案し、仮設対応を含めて、可能な限り実現を目指す。

ただし例外的に、構造上の理由等によって、やむを得ず標準基準を満たせない施設を利用せざるを得ない場合には、少なくとも現行法令に基づく『国の遵守基準』は満たすこととする。

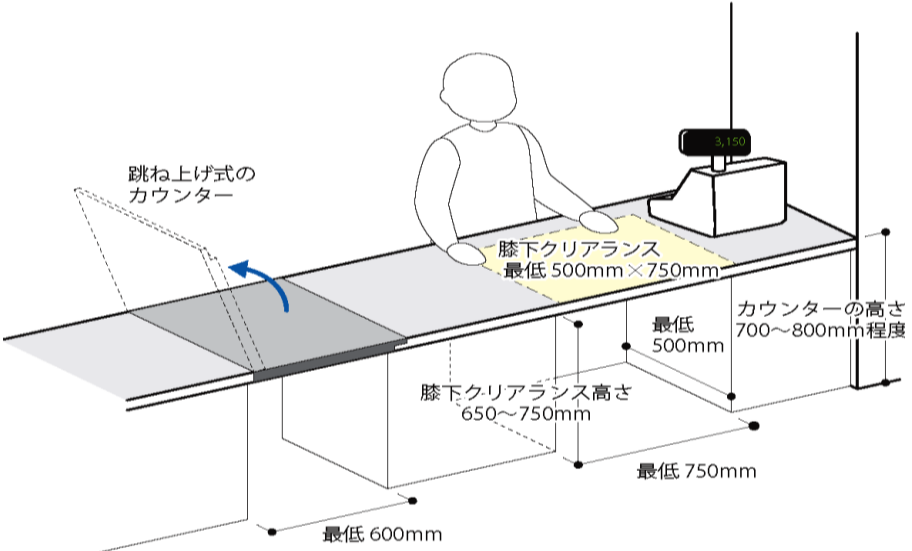
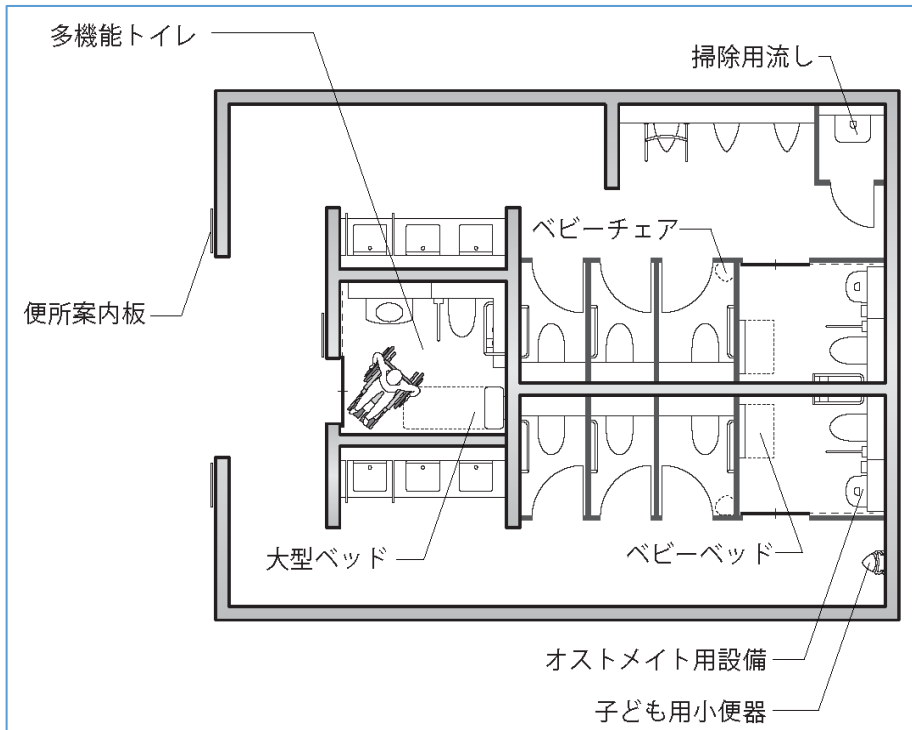
- 数値以外の基準は IPC ガイドの規定をベースに国内法令等との整合性を考慮して設定した。

## 4. ガイドラインを踏まえた整備の考え方

- ガイドラインを踏まえた整備を実施する際には、適用対象施設の所有者・管理者等に対し、それぞれの計画に基づき、ガイドラインに即した施設建設・改修工事を実施するよう依頼し、まずはレガシーとなる恒常的な施設としての環境整備を働きかける。
- ただし、恒常的な整備が困難な場合、仮設による整備、ソフト的対応(専用車等による移動支援、ボランティアによるサポート等)によりガイドラインに沿ったサービス水準を確保する。

## 5. ガイドライン記載内容の紹介(一部抜粋)

項目	数値基準/数値以外の基準
会場出入口のドア幅	推奨基準: 950mm (IPC の推奨基準) 標準基準: 大会会場は 850mm (IPC の標準基準)、公共交通施設は 900mm (国の推奨基準) 例外的な場合でも、公共交通施設では 800mm (国の遵守基準) を満たすものとする  ※競技用車いすを利用する選手動線は 1,000mm 以上
会場の通路幅	推奨基準: 不特定多数の歩行者が極めて多い通路は 2,000mm 以上 選手村・公共交通機関は 1,800mm 以上 (IPC・東京都の推奨基準) 標準基準: 不特定多数の歩行者が極めて多い通路は 1,800mm 以上、選手村・公共交通施設は 1,500mm 以上 (IPC 等の標準基準) 例外的な場合でも、1,200mm 以上 (国の遵守基準) を満たすものとする  ※歩道は、歩行者の多い場合 3,500mm 以上、標準基準 2,000mm 以上、国内基準 1,500mm 以上。ただし、地形の状況、その他の特別な理由によりやむを得ない場合は当該区間を 1,000mm まで縮小可能と定められている。
会場・ルートのエレベーターのかごの大きさ	推奨基準: 幅 2,100mm × 奥行 1,500mm (IPC の推奨基準)、又は同等水準のサイズ 標準基準: 幅 1,700mm × 奥行 1,500mm (IPC の標準基準)、又は同等水準のサイズ 例外的な場合でも幅 1,400mm × 奥行 1,350mm (国の遵守基準) を満たすものとする  ※鉄道駅等は、同一ホーム等に複数台設置することにより全体容量で推奨基準を達成する場合も、当該基準を満たすものとする。
競技会場のアクセシブルな座席比率	標準基準: オリンピック大会会場は 0.75% パラリンピック大会会場は 1.0%~車いす競技会場は 1.2% 同伴者席は同比率で横に設置 (IPC の標準基準)  ※アクセシブルな座席は、複数の位置から座席の選択が可能となるよう分散して配置。

項目	数値基準／数値以外の基準
サービスカウンター (図は参考例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>床面からの高さ 700～800mm 程度のカウンターを組み込む。</li> <li>車いす使用者、腕が届きにくい人、腕力のない人をサポートできるよう、カウンター内側から外に出られる最低幅 600mm の出入口を設ける。</li> </ul> 
トイレ機能の分散配置を推奨 (図は参考例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として異性の同伴者が支援可能な「男女共用の多機能トイレ」が必要だが、多機能トイレを補完し機能を分散できるよう、男女別トイレ内に車いすで入りし便器への移乗スペースを確保した上でオストメイト用設備などの機能を備えた「簡易型多機能便房」や、一つの機能だけを補完した「個別機能を備えた便房」を組み合わせる設置することが望ましい。</li> </ul> 

組織委員会による情報発信 (一部抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 刊行物               <ul style="list-style-type: none"> <li>組織委員会が作成する刊行物は、紙面のコントラスト・光沢、文字の色・大きさ、フォントの種類・太さ、行間、文字間隔等において読みやすい配慮が必要。</li> <li>視覚に障がいのある人が情報にアクセスできるよう、点字、テキストデータ、拡大文字または音声形式、触知可能な地図等で提供できることが望ましい。</li> </ul> </li> <li>◇ ウェブサイト               <ul style="list-style-type: none"> <li>組織委員会のウェブサイトで発信する情報は読み上げソフトに対応する。</li> </ul> </li> <li>◇ 表示サイン               <ul style="list-style-type: none"> <li>国際的に認められたシンボルを利用することが望ましく、文字やシンボルには背景色とコントラストのはっきりした色彩を用いる。</li> <li>表示サインは、アクセシブルルートにある鉄道駅等の交通機関、交差点エリア、アクセシブルな会場入口への通路、会場内のアクセシブルな座席への通路、会場内のアクセシブルなトイレへの通路などに配置する。</li> <li>注) 具体的なデザイン・シンボルの採否は、ガイドラインの対象外。</li> </ul> </li> </ul>
大会スタッフ等に対するアクセシビリティトレーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の態度やコミュニケーション上のバリア、誤解は、建築物における構造的な障害よりも強固なバリアになりうることから、大会サービスを提供する上で、大会スタッフ・ボランティアには、次の3段階でトレーニングを実施する。</li> <li>障がい者等に対する一般的なエチケット／アウェアネストレーニング</li> <li>大会／任務別のアクセシビリティトレーニング</li> <li>会場固有のアクセシビリティトレーニング</li> <li>注) 具体的なトレーニング方法・実施時期の決定は、ガイドラインの対象外。</li> </ul>

以上



# アクション&レガシープラン2016策定に向けて

---

# アクション&レガシープランに関する検討経過及び今後の予定について

## 第1回～第5回 アスリート委員会

- アクション&レガシープラン（スポーツ・健康）のコンセプト、レガシーやアクションの方向性
- アスリートとして、今後どんな活動により、レガシーを創出するためのアクションに関わりたいか 等について議論

2016.1.25 理事会      **アクション&レガシープラン2016中間報告 公表**

## 第6回 アスリート委員会（本日）の報告・検討事項

- I アクション&レガシープラン2016について
- II 「東京2020参画プログラム（仮称）」について
- III 今後の展開について

2016.7.25 理事会      **アクション&レガシープラン2016 公表（予定）**

- ・アクション&レガシープランは、アクションの実績（取組事例等）を盛り込み、今後も毎年改訂
- ・東京2020大会終了時点でファイナルレポートとして、「アクション&レガシーレポート2020」を策定

# I アクション&レガシープラン2016について

# I アクション&レガシープラン2016について ~全体概要~

## 1. 基本的な考え方（アクション&レガシープラン）

- ▽ 『オリンピック・パラリンピックは参加することに意義がある』とあるように、できるだけ多くの方々、自治体や団体に参画していただく【アクション】。
  - ▽ 大会ビジョンで「スポーツには世界と未来を変える力がある」を掲げ、その力で、東京2020大会をきっかけにポジティブな影響を残し、聖火リレーのように、次代を担う若者や子供たちに継承していく【レガシー】。
- ↓
- ▽ 『アクション&レガシープラン』は、一人でも多くの方が参画【アクション】し、大会をきっかけにした成果を未来に継承する【レガシー】ためのプラン。

## Tokyo 2020 Vision

スポーツには、世界と未来を変える力がある。  
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は

「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」

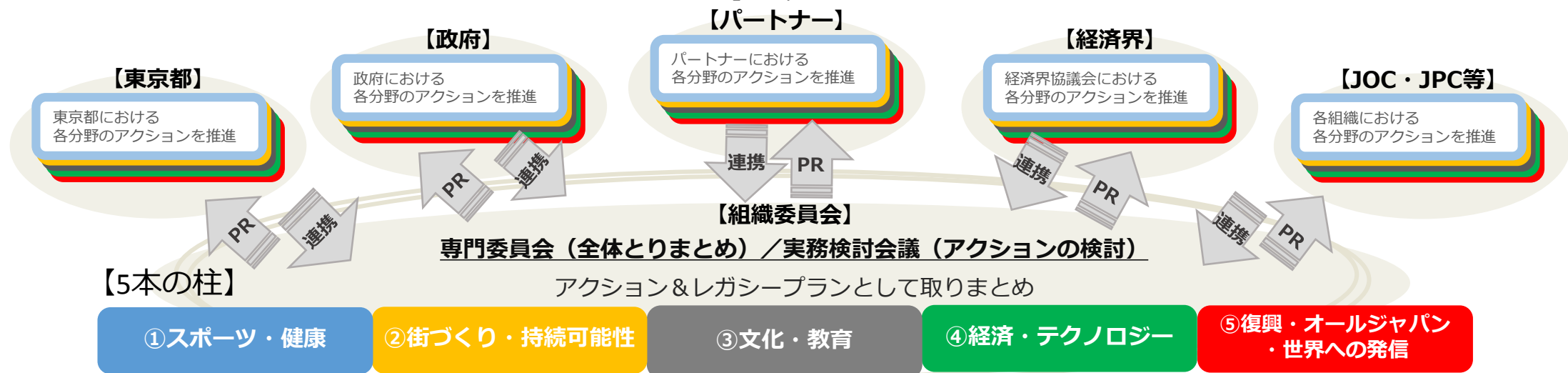
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」

「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を

3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベティブで世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

## 2. オールジャパンでの取組

- ▽ 東京都、政府、経済界、JOC・JPC等の関係団体と連携を図り、オールジャパン体制で検討。
- ▽ ①「スポーツ・健康」②「街づくり・持続可能性」③「文化・教育」④「経済・テクノロジー」⑤「復興・オールジャパン・世界への発信」の5本の柱で検討。⇒今後、「アクション&レガシープラン2016」を策定し、リオ大会前に公表予定。



# I アクション&レガシープラン2016について ～全体概要～

## 3. アクション&レガシープラン2016の策定に向けた重要な視点

### (1) 『参画』

- 多くの企画・イベントを全国で実施し、できるだけ多くの方々、自治体や団体に主体的に参画していただき、盛り上げを図る。
- 企画・イベント等の「認証」の仕組みをリオ大会前までに構築。

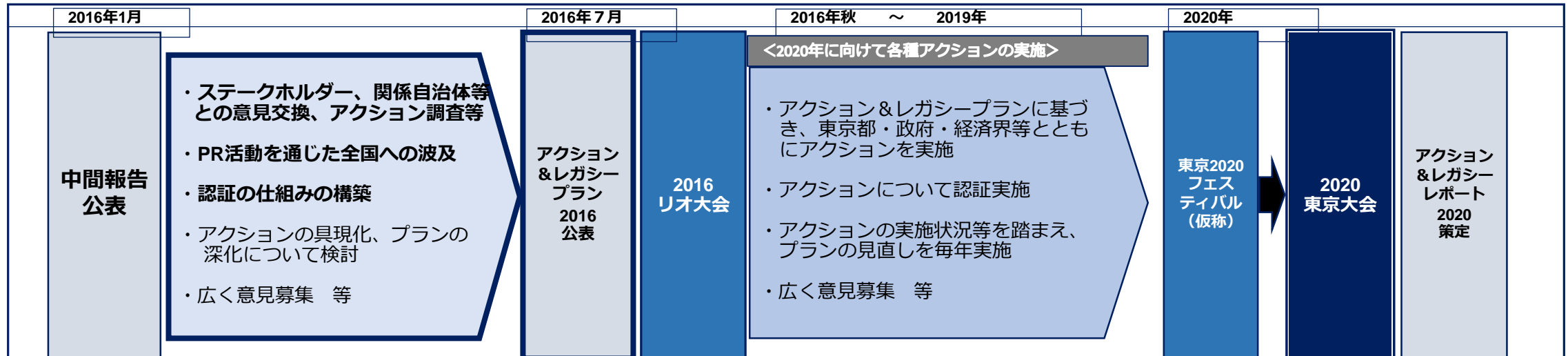
### (2) 『パラリンピック』

- 高齢化先進国に向けた課題解決や、共生社会の実現・確立に向けたきっかけとなりうる大会。
- 東京は世界で初めて、同一都市で2回目のパラリンピック大会が開催される都市。

### (3) 『2018～2022年の間の大規模大会との連携』

- オリンピック・パラリンピック大会（2018年 平昌（韓国）・2020年 東京（日本）・2022年 北京（中国））、日本でのラグビーワールドカップ大会（2019年）、ワールドマスターズゲームズ（2021年）といった世界的な大規模スポーツ大会との連携を図る。

## 4. 2020年に向けたスケジュール概要





# I アクション&レガシープラン2016について ～スポーツ・健康分野の概要～

コンセプト

- スポーツの力でみんなが輝く社会へ
- 「スポーツの力」を活かし、誰もが自分の持つ力を発揮して、みんなが輝く（活躍することのできる）社会を目指す

目指すレガシーの方向性

誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現	アスリートが活躍する社会の実現	パラリンピックを契機とした共生社会の実現
スポーツ参画人口の拡大とスポーツ関連産業の発展	競技力の向上と競技環境の整備	障がい者スポーツのファン拡大
スポーツ（運動）の力による健康づくりの推進	ロールモデルアスリートの育成と活躍の推進	障がい者スポーツの環境整備
スポーツを通じた国際交流・協力	スポーツ・インテグリティの保護	共生社会に向けたアプローチ

## オールジャパンで様々なアクションを推進

誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現に向けたアクション例	アスリートが活躍する社会の実現に向けたアクション例	パラリンピックを契機とした共生社会の実現に向けたアクション例
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「一地域一スポーツ運動（仮称）」等によるスポーツ実施率向上に向けた取組の推進</li> <li>■ スポーツウェルネスに関する情報を効果的に届けてスポーツ実施を促す人材を全国で組織化</li> <li>■ アスリートや市民が参画する大会エンゲージメントと地域のスポーツ振興等を相乗効果が高まるように実施</li> <li>■ 「スポーツ・フォー・トゥモロー」等、スポーツを通じた国際貢献の推進等</li> <li>■ 身近な場所でのスポーツ実施を促進するため、様々な資源を最大限活用して「スポーツフィールド」を創出 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アスリートの競技力向上と健康維持を支える環境整備（女性アスリートの課題へも対応）</li> <li>■ 次世代アスリート育成する好循環「アスリートサイクル」を推進</li> <li>■ アスリートの経験を活かした商品開発等の推進</li> <li>■ 「若手アスリート参画プロジェクト」などスポーツの力による復興・地域活性化の推進</li> <li>■ アスリートのキャリアやネットワークを活用した地域スポーツの推進 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ パラリンピック競技や障がい者スポーツの魅力を多角的に発信、体験機会の提供など</li> <li>■ 特別支援学校等を、地域の障がい者スポーツの拠点の一つとして活用</li> <li>■ 障がい者スポーツ支援に取組む企業と団体のマッチングの仕組みづくり</li> <li>■ 心のバリアフリーの理解・定着促進</li> <li>■ 障がい者のスポーツ参加を促進するための好事例の発信 等</li> </ul>

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

# I アクション&レガシープラン2016について～中間報告以降の検討・取組状況～

## ＜中間報告からの主な変更・追加点＞

(1) 5本柱に共通する3つの重要な視点（参画・パラリンピック・大規模大会との連携）について第1章で追記

視点	記載内容
参画	「東京2020参画プログラム（仮称）」について 認証対象、付与されるマーク及び今後の展開スケジュール等について記載
パラリンピック	パラリンピックの意義及び東京大会を通じて目指すべき姿等について記載
2020年前後5年間の大規模大会との連携	5大会の概要及び連携の意義等について記載

(2) 2020年までに想定されるアクション例一覧の更新

- ・ 中間報告に付表として添付したアクション例・マトリクス（一覧表）を更新

(3) 2016年度下半期のアクション一覧の作成

- ・ 2016年度下半期に政府、東京都、46道府県、パートナー企業、JOC・JPC等の団体が実施する予定の主なアクションを調査し、アクション一覧表をプランに追加（現在取りまとめ中）

# I アクション&レガシープラン2016について ～中間報告以降の検討・取組状況～

## アスリート委員会の協力によるPR活動

### ○東京マラソンEXPO 2016会場でのトークセッション（2016年2月）

一般財団法人東京マラソン財団の協力を得て、東京マラソンEXPO 2016会場で、トークセッション「走り出そう、東京マラソンから東京2020大会へ」を実施。

高橋委員長、河合副委員長、田口委員、廣瀬委員、三浦委員が、それぞれ自らの競技の魅力紹介を行いつつ、東京マラソンへの思いなどについてトークを展開、東京2020大会の先にレガシーを創出するためのアクションのキックオフを行った。

### ○「Sports Japan」誌上での正副委員長対談によるPR（2016年3月）

公益財団法人日本体育協会が発行している「Sports Japan 2016 03-04特別号」（約19万部発行）において、アクション&レガシープランを紹介する正副委員長の対談記事「みんなで創りだそう、東京2020大会の先のレガシーに向けて」を掲載。

読者（スポーツ界関係者）をはじめとして、全国の方々に、レガシー創出に向けたアクションを通じて東京2020大会に参画してもらえようメッセージを発信。



©東京マラソン財団

## Ⅱ 「東京2020参画プログラム（仮称）」について

※内容についてはI O Cと調整中

## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 1. プログラムの概要

#### ■ 背景

東京2020大会組織委員会は、東京2020大会を一過性のイベントとするのではなく、出来るだけ多くの人々が参画し、あらゆる分野で東京2020大会がきっかけとなって社会が変わったと言われるような大会を目指している。



様々なアクションに対して組織委員会からマーク等を付与する仕組みを構築し、それを梃子に東京2020大会に向けたエンゲージメント（参画）・機運醸成及びレガシー創出を推進。

#### ■ 東京2020参画プログラム（仮称）の目的

##### ① オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの参画促進

東京2020大会の盛り上げ等に向けて、多くのアクション（イベント・事業等）が実施され、できるだけ多くの方々や団体が主体的に参画できることを推進する。

##### ② レガシー創出に向けたアクションの促進

レガシー創出につながるアクションをオールジャパンで推進するために、コンセプトを共有し一定の基準を満たす取組を組織委員会の関連アクションとして認証し、それをきっかけに社会にポジティブな成果が生まれることを促進する。

## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 2.アクション&レガシープランと東京2020参画プログラム（仮称）の関係

#### 【基本的な考え方】

- アクション&レガシープランは、東京2020大会に向けた機運醸成や大会を契機としたレガシー創出のコンセプト等を提示。
- 東京2020参画プログラム（仮称）は、マークの付与等により、プラン具現化を図るため、プランのコンセプト等を踏まえ、審査の基準となる要件などを設定。プランで示した目指すべき方向に、オールジャパンでのアクションを推進するもの。

#### 【留意事項】

- 東京2020参画プログラム（仮称）はIOC/IPCとのマーケティング等取り決めの元で精査・承認する必要があるため、アクション&レガシープランに掲載のある取組例やアクションが自動的に認証されるわけではない。

### アクション&レガシープラン

#### コンセプト（2016年1月中間報告）

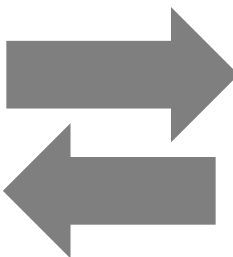
##### 【役割】

- レガシー創出に向けたコンセプトやアクションの方向性等の提示
- 様々な主体の取組の参考となる事例集的役割

##### 【狙い】

- 2020年あるいはそれ以降を見据えた取組（構想含む）を幅広く記載し、アクションを例示
- 大会を契機としたレガシーの方向性を提示

コンセプトを  
認証基準・要件  
に活用



エンゲージメント（参画）  
による具現化

#### 東京2020参画プログラム（仮称）

##### 【役割】

- スポンサーシップに配慮しつつ、マーク付与により、東京2020大会とのつながりを創出
- プランのコンセプト等に基づく認証基準・要件を提示

##### 【狙い】

- オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの参画の加速・促進
- アクション&レガシープランの具現化によるレガシー創出



## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 3. プログラムの対象、実施可能な事項

#### ■プログラムの対象



- 各ステークホルダーが実施するアクション（イベント・事業等）
- ただし、組織委員会が定める一定の要件を満たすもの（後述）
- 「東京2020公式認証プログラム（仮称）」「東京2020応援プログラム（仮称）」の2種類の認証区分

#### ■認証を受けることで実施可能な事項（案）

- 認証マークの使用（ただし、使用方法については組織委員会の確認が必要）
- 「東京2020公式認証プログラム（仮称）」にはタイトルに、「東京2020応援プログラム（仮称）」には説明に、「オリンピック・パラリンピック」の文言使用が可能
- 組織委員会が認めたイベント・事業としての実施・PR  
（例：組織委員会が認める「文化プログラム」としての実施・PR）

## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 4. プログラムの体系（案）

事業名	実施主体（※1）	概要	付与マーク
東京2020大会 公式認証プログラム（仮称）	開催都市（東京都、都内区市町村）、 国、会場所在地方公共団体、 JOC、JPC、スポンサー企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大会ビジョン等の実現に寄与し、東京2020大会の機運醸成やレガシー創出につながる取組を認証</li> <li>✓ 公式事業としての位置づけ</li> </ul>	OCOGマーク  例：リオ大会における OCOGマーク  
東京2020大会 応援プログラム（仮称）	非営利団体等 （公式認証プログラムの実施主体 に該当しない団体）	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大会ビジョン等の実現に寄与し、東京2020大会の機運醸成やレガシー創出につながる取組を認証</li> <li>✓ アクションの裾野を広げ、多くの人々が参画できることを目指す</li> </ul>	NCマーク  例：リオ大会に おけるNCマーク  

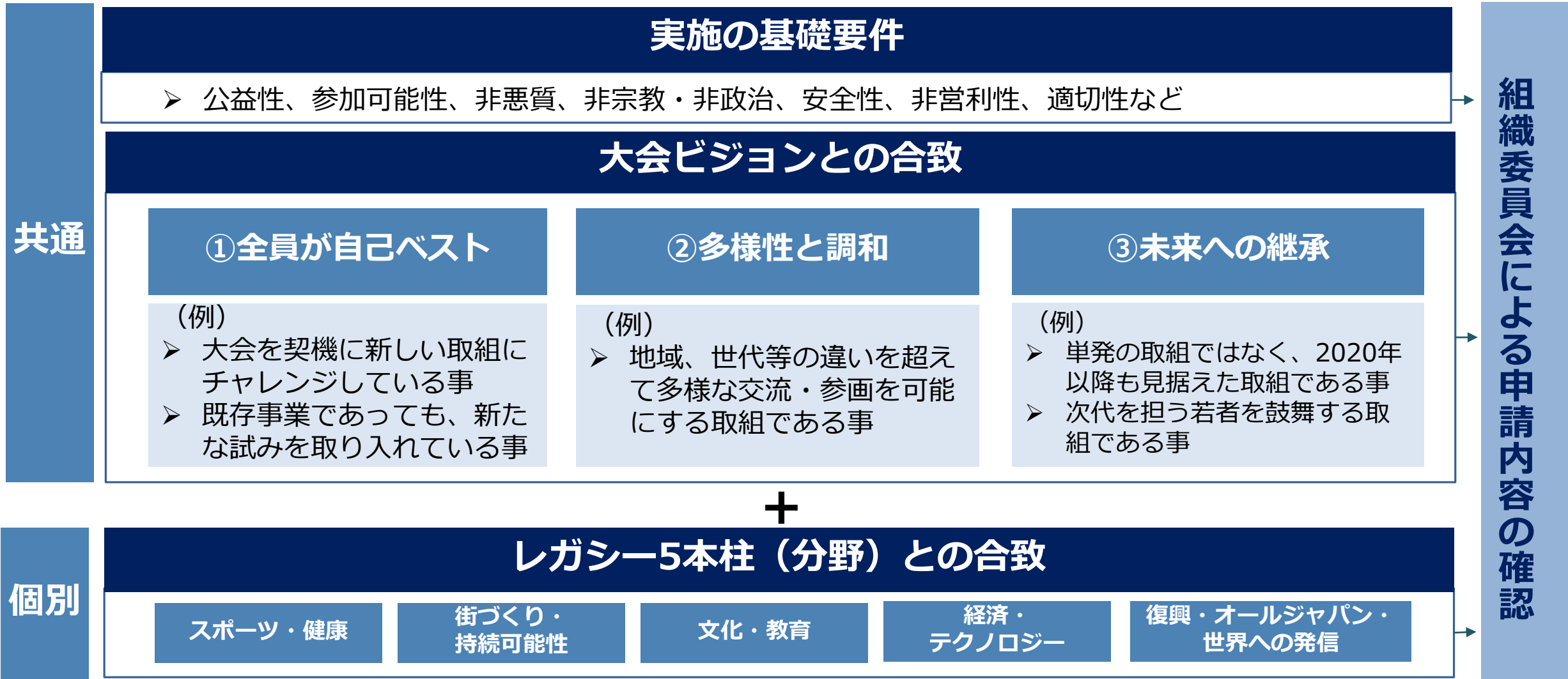
※1：主催者に協力する組織は、スポンサーシップとの関係から、大会エンブレムが使える団体（東京都、都内区市町村、政府、会場所在地方公共団体、JOC、JPC、スポンサー企業）のほか、国内競技連盟（NF）、大学、公益法人、その他これらに準じる非営利団体もしくはその他組織委員会が適当と認める団体等であることが必要



## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 5. プログラムの対象となる取組（案）

【要件】 実施の基礎要件を満たし、大会ビジョン・アクション&レガシー5本柱に合致する取組



## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 6. 実施の基礎要件（案）

- 以下に掲げる要件を全て満たしていること
- また、東京2020大会スポンサーのマーケティングルールを順守すること

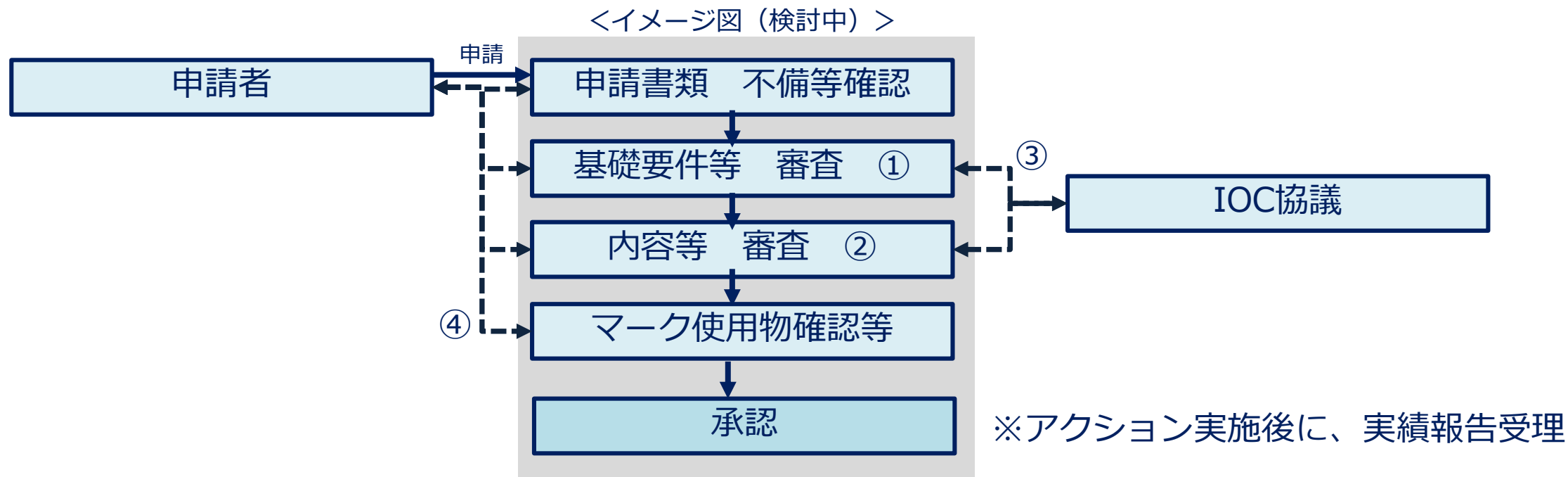
要件	内容
公益性	事業の目的及び内容に公益性があること
参加可能性	事業の対象者が広い範囲にわたること。また、参加料等が無料の事業やボランティアを積極的に活用するなど多様な参加に向けた工夫をしていること
非悪質	事業が公序良俗に反するもの、その他社会的な非難を受ける恐れのないものであること
非宗教・非政治	特定の思想、宗教及び政治的活動に基づいていないこと
安全性	事業の開催にあたって、事故防止、公衆衛生対策等に十分な設備と措置が講ぜられていること
非営利性	営利・宣伝を主たる目的としない事業であること。また、入場料、参加料等を得る事業でも、その目的及び内容に対し社会通念上、適当な額であること
適切性	上記以外にオリンピック・パラリンピック憲章またはオリンピック・パラリンピックの趣旨に照らして不適切と認められる事業内容を含んでいないこと

※非営利団体の場合、地方自治体の後援名義を求めることを検討

## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 7. 審査のプロセス（案）

- 実施の基礎要件及び大会ビジョン、レガシーコンセプト等を実現する事業内容かどうかを総合的に審査する
- 審査を円滑に実施し、また全国のより広範な地域に参画のムーブメントを展開していくために、組織委員会のみならず、関係団体との連携を強化を検討していく



- ① 大会実施主体の要件、実施の基礎要件を満たしているか
- ② レガシーコンセプトに関する基準を満たしているか
- ③ 主催者、内容等について疑義が生じる場合など、必要に応じて協議
- ④ 審査等を踏まえ、申請を差戻す可能性あり

## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 8. 今後のスケジュール（予定）

この秋から、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた参画プログラムが始まります！

#### <初期の認証範囲（案）>

政府、開催都市、  
会場所在自治体、  
スポンサー企業、JOC、JPC  
日体協、JPSA、JSC等

認証件数の増加、  
大会の機運醸成

東京2020  
フェスティバル（仮称）

レガシーと  
して継続

アクション・  
キックオフ期間

START

認証の対象範囲を順次拡大（※）

東京  
2020  
大会

2016年  
10月

2016年  
12月

2017年  
4月（予定）

2020年

※参画プログラムの創設についてはIOC との調整が必要となること、また、立ち上げ時には案件毎の審査を丁寧に行う必要があること等を鑑みると、2016年10月のスタート時は、まずは対応可能な範囲でスタートさせ、その後、段階的に対象を広げていく方向で検討

## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 9. スポーツ・健康に関する認証について（案）

#### <概要>

東京2020大会の開催機運を醸成し、大会の先にレガシーを創出するアクションを推進するため、「アクション&レガシープラン（スポーツ・健康）のコンセプトを具現化するアクションのうち、一定の基準を満たすものを「東京2020スポーツ・健康プログラム（仮称）」のアクションとして認証する。

#### <コンセプト>

#### スポーツの力でみんなが輝く社会へ

- スポーツには、心身を健康にして人生を豊かにする力、人と人や地域と地域等の交流を促進する力、それにより、地域や社会の一体感や活力を醸成する力、さらには、開発課題への対応や平和の醸成に貢献する力がある
- 史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会の実現を通じ、こうした「スポーツの力」を活かし、誰もが自分の持つ力を発揮して、みんなが「輝く」（活躍することのできる）社会を目指す

#### <名称>

#### 「東京2020スポーツ・健康プログラム」（仮称）

- リオデジャネイロ大会後に開始

2016年10月

リオ2016大会

東京2020スポーツ・健康プログラム（仮称）

## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 9. スポーツ・健康に関する認証について（案）

#### ■大会ビジョンと「スポーツ・健康プログラム（仮称）」のコンセプト

##### 大会ビジョンの実現

全員が自己ベスト

多様性と調和

未来への継承

##### 残すべき3つのレガシーコンセプトの実現

コンセプト①：誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現

コンセプト②：アスリートが活躍する社会の実現

コンセプト③：パラリンピックを契機とした共生社会の実現

##### レガシー実現に向けたアクション

レガシーの実現に向けて、2020年まで様々な主体における多様な連携により取組をオールジャパンで推進

## II 東京2020参画プログラム（仮称）について

### 9. スポーツ・健康に関する認証について（案）

【スポーツ・健康に関する基準】大会ビジョン及びレガシーコンセプトを実現する事業内容かどうかを総合的に審査

#### 大会ビジョンに基づくもの

##### ①全員が自己ベスト（革新性・新規性）

- 大会を契機に新しい取組にチャレンジしている事
- 既存事業であっても、新たな試みを取り入れている事

##### ②多様性と調和（参画性）

- 人種や地域、障がいの有無を超えて、あらゆる人々が参加・交流する取組である事

##### ③未来への継承（レガシー）

- 2020年以降を見据えた東京・日本の発展に寄与する取組である事
- 次代を担う若者を鼓舞する取組である事

#### レガシーコンセプトに基づくもの

##### ①誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会

- 誰もが、身近な地域で、スポーツを「する・観る・支える」ことのできる環境を整えることにより、スポーツ参画人口が拡大
- 超高齢社会に向けた諸課題への対応やスポーツ参画人口の拡大により、「スポーツ・健康」関連の産業分野が振興し新たな雇用や価値等を生み出すと共に、日本経済の発展にも寄与
- 自分の体力等に見合った運動やスポーツを日常的に継続して実施する人が増えること（スポーツ実施率向上）により、健康な人が増加
- 世界各国・地域とのスポーツによる国際交流・協力が一層盛んになり、スポーツの価値とオリンピック・パラリンピック精神が国内外により広く普及

##### ②アスリートが活躍する社会

- 大会に向けて、競技力向上はもとよりアスリートの健康にも配慮した競技環境の整備や、次代を担うアスリートの発掘・育成の環境も整い、総じて、アスリートの「総合力」が向上
- アスリートが地域の指導者として、ジュニア層を育成し、さらに次の世代に循環していくアスリートサイクルが定着
- 鍛錬を重ね競技で活躍したアスリートが、競技（スポーツ界）以外でも、社会の様々な場で幅広く活躍、国内外の人々に「スポーツの力」を発信するなど、良い影響力を発揮
- 競技団体をはじめとするスポーツ団体の活動が広がり、ガバナンスや実行力が高まると共に、スポーツ・インテグリティ（スポーツの高潔性）保護の認識や取組が向上

##### ③パラリンピックを契機とした共生社会

- パラリンピックの競技種目をはじめ、障がい者スポーツに対する認知度が飛躍的に向上し、ファンや支え手となる人が増加
- 障がい者のスポーツ実施のための場の確保や人材育成などが格段に進み、障がいのある人もない人も、身近な地域で日常的にスポーツに親しむことのできる環境整備が進展
- パラリンピック大会の成功、障がい者スポーツの認知向上などを通じて、障がい者への理解が深まり、ハード面のバリアフリー化だけでなく、「心のバリアフリー」が浸透し、共生社会の礎を形成

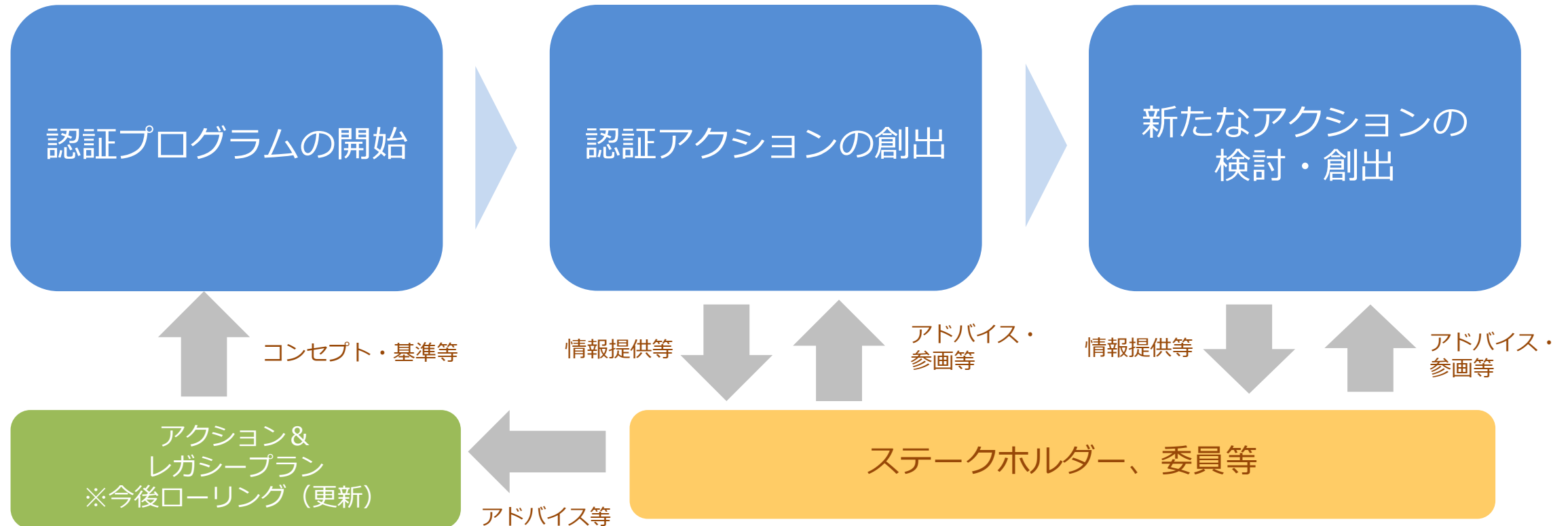
## Ⅲ 今後の展開について



### Ⅲ 今後の展開について

#### 1. 基本的な考え方

- 今後は、「東京2020参画プログラム（仮称）」を活用し、「アクション&レガシープラン」のコンセプトに合致するアクションの実施により、大会開催機運の醸成や大会の先のレガシー創出を促進
- 組織委員会は、レガシーにつながるアクションが全国各地で創出されるよう、ステークホルダーや委員の皆様からアドバイスを頂きながら、アクションの方向性や実例等を盛り込み、毎年プランを更新



#### 1 今後予定されているアクションについて

ステークホルダー等により2016年度下半期に実施が予定されているアクション一覧表(机上配布資料4-4参照)と、本プラン(スポーツ・健康)のコンセプト等を踏まえ、今後期待されるアクションや方向性等につきご意見を伺いたい。

##### <2016年度下半期に予定されているアクションの例>

- **アスリートとの交流、競技体験、スポーツイベント等の取組**
  - ・ オリンピアン・パラリンピアン等、アスリートの参画による競技体験イベント、講演会等
  - ・ 誰もが参加できるウォークイベントやマラソンをはじめとする様々なスポーツイベント
- **スポーツをする場、競技の「聖地」をつくる取組**
  - ・ 国際的な競技大会の開催地となることにより、開催競技の「聖地」となることを目指す等、スポーツによる地域活性化に向けた取組
  - ・ スポーツ無関心層も視野に、ショッピングセンターなどスポーツ施設以外の場での、新たなスポーツプログラム等を実施する取組
  - ・ 特別支援学校等を活用した、地域のスポーツ拠点の拡大
- **企業との連携による取組**
  - ・ 社内外のスポーツ活動を積極的に推進する企業を認定、特に優れた活動を表彰する取組
  - ・ 障がい者のスポーツ用具や最先端のウエア等を提示するスポーツ産業企業の見本市の開催
  - ・ 各企業の開放可能なスポーツ施設の情報等をHPを通じて発信する取組
- **アスリートの発掘・育成・競技力向上、キャリア支援等に関する取組**
  - ・ 現役アスリートの就職支援、企業とのマッチング(アスナビの各地域版)
  - ・ ジュニアアスリートの発掘・育成・強化等の取組

##### <アクション&レガシープランの方向性に照らし、今後の発展・拡大が期待されるアクションの例>

- ◆ 多様なアプローチにより、スポーツ・運動への関心を高め、スポーツ参画人口の拡大やスポーツ関連産業の発展を促進するアクション
- ◆ スポーツ界で活躍したアスリートが、「わがまちのアスリート」として地域や社会の様々な場でも一層活躍するためのアクション
- ◆ 障がいの有無等に関わらず、誰もがスポーツを通じて交流し、「心のバリアフリー」の理解・定着を促進するためのアクション

## 2 東京2020参画プログラム（仮称）について

### <検討の視点例>

- ・スポーツ・健康分野のレガシー創出に向けたアクションを推進していく上で、「東京2020スポーツ・健康プログラム（仮称）」をどのように運用すべきか
- ・プログラムの運用やPR等にアスリート委員としてどのような協力ができるか 等

## 3 委員会発のアクション・アイデアの「アピールポイント」について

これまでのアスリート委員会での意見・提案に基づくアクション・アイデアが、今後、ステークホルダーやパートナー企業をはじめ、様々な主体によりアクションとして具現化されるよう、アイデアの「アピールポイント」等についてご検討をお願いします。

### <検討の視点例>

- ・アイデアの具現化に向けてはどんな取組が必要か、アスリート委員としてどんな協力ができるか
- ・各アイデアは、どのような主体の参画により具現化されることが期待されるか
- ・各アイデアの具現化により、どのような効果（機運醸成・レガシー創出）が期待されるか 等

## アクション・アイデアの具現化に向けて（資料4-1：検討用資料）

これまでのアスリート委員会でのアクションに関するアイデアや意見が、東京2020大会のステークホルダーやパートナー企業をはじめ、様々な主体により、今後、新たなアクションとして具現化されるよう、アイデア等の「アピールポイント」や具現化に向けて必要な取組について検討をお願いします。

番号	アスリート委員会の意見・アイデア	期待される実施主体の例	アクション&レガシープランにおける位置づけ	アイデア具現化に向けたアピールポイントなど
1	<p>「リオから東京へ歩いて（走って）いこうプロジェクト（仮称）※」のアイデアはユニーク。「私なら泳いで行く」など、アスリート委員がそれぞれの競技種目を活かして一緒に参加するなどできたら面白いのではないかと。</p> <p>※個人やグループで参加できる、楽しみながらスポーツ・運動を継続できる共通のプラットフォーム（アプリ等）を活用し、東京2020大会に向けてオールジャパンでスポーツ参画を促進するキャンペーン（ムーブメント）のアイデア</p>	<p>企業 スポーツ関係団体 政府等</p>	<p>誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ参画人口の拡大とスポーツ関連産業の発展</li> <li>・スポーツ（運動）の力による健康づくりの推進</li> </ul>	
2	<p>○様々なスポーツイベント等と連携して、オリンピック・パラリンピック競技の体験や魅力紹介をしていきたい</p> <p>○地域の身近なところで「移動スポーツ教室※」など親子等で気軽に参加できるスポーツイベントが増えると良い</p> <p>○一見関係ないようなイベント（例：子育て世代向けイベント等）と連携し、スポーツ無関心層へもアプローチできるとよい</p> <p>※様々なスポーツを体験できる機会を「移動スポーツ教室」としてパッケージ化し、各地域のアスリートや関係団体の協力を得て実施する等のアイデア</p>	<p>企業 スポーツ関係団体 地方自治体等等</p>	<p>誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ参画人口の拡大とスポーツ関連産業の発展</li> <li>・スポーツ（運動）の力による健康づくりの推進</li> </ul>	
3	<p>「わがまちアスリート（仮称）※」として提案されているアイデアのように、地域のスポーツ振興に関わりたい</p> <p>※オリンピック・パラリンピアン等として活躍した各地域在住のアスリート等が、大会エンゲージメント活動の旗手として、地域のスポーツ振興等をリードする第一人者として活躍するためのしくみづくり、人材ネットワークづくりのアイデア</p>	<p>スポーツ関係団体 地方自治体・政府等</p>	<p>アスリートが活躍する社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールモデルアスリートの育成と活躍の推進</li> </ul>	
4	<p>スポーツ産業の見本市等と連携して、アスリートのニーズと企業（技術開発等）ニーズのマッチングを行い、商品開発・技術力PR等に協力したい</p>	<p>企業 スポーツ関係団体等</p>	<p>誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ参画人口の拡大とスポーツ関連産業の発展</li> </ul> <p>アスリートが活躍する社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールモデルアスリートの育成と活躍の推進</li> </ul>	
5	<p>地域や民間のスポーツクラブも含めて、スポーツを実施する場での、障がい者のスポーツ参加を進めるための好事例等をアスリートが効果的に情報発信することにより普及させていきたい</p>	<p>スポーツクラブ 地方自治体 スポーツ関係団体等</p>	<p>パラリンピックを契機とした共生社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者スポーツの環境整備</li> </ul>	
6	<p>「心のバリアフリー」への理解を広げるため、アスリートの体験談（こんなサポートが嬉しい等の事例）を、冊子やホームページ等で発信するなどにより、教育現場等でも活用されるとよい</p>	<p>企業 地方自治体 教育機関等</p>	<p>パラリンピックを契機とした共生社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共生社会に向けたアプローチ</li> </ul>	



# アスリート委員会の今後の運営について

---

# 1. 趣旨

**アスリート・ファーストの大会を実現し、  
大会の先にレガシーを創出するアクションや  
エンゲージメントを推進するため、**

**委員会の下に2つのワーキンググループ（WG）を設け、  
アスリートの意見をより一層活かせる体制をつくる。**

## 2. これまでの経緯

2016年1月20日

IOC OGKM ワークショップ 開催

「アスリート・ファーストの環境整備に向けたNOCサービスワークショップ」

### ○参加者

IOCアスリート委員会委員長 Ms Claudia BOKEL

ロンドン2012アスリート委員会委員長 Jonathan Edwards, CBE

ロンドン2012NOC/NPCサービス部門ヘッド Mr James Macleod

東京2020アスリート委員会（高橋委員長、河合副委員長、関根委員、田口委員、土田委員）

東京2020組織委員会（室伏SDほか、関係者）

JOC, JPC, JADA：日本国内のアスリート

### ○議題等

- ロンドンと東京の組織委員会におけるアスリート委員会の役割と活動について報告
- 東京のアスリートサービスレベル議論の過程における、アスリートの関与等について意見交換

2016年5月25日

IOC Executive Meetingにおいて、「アスリート委員会の進捗について」報告

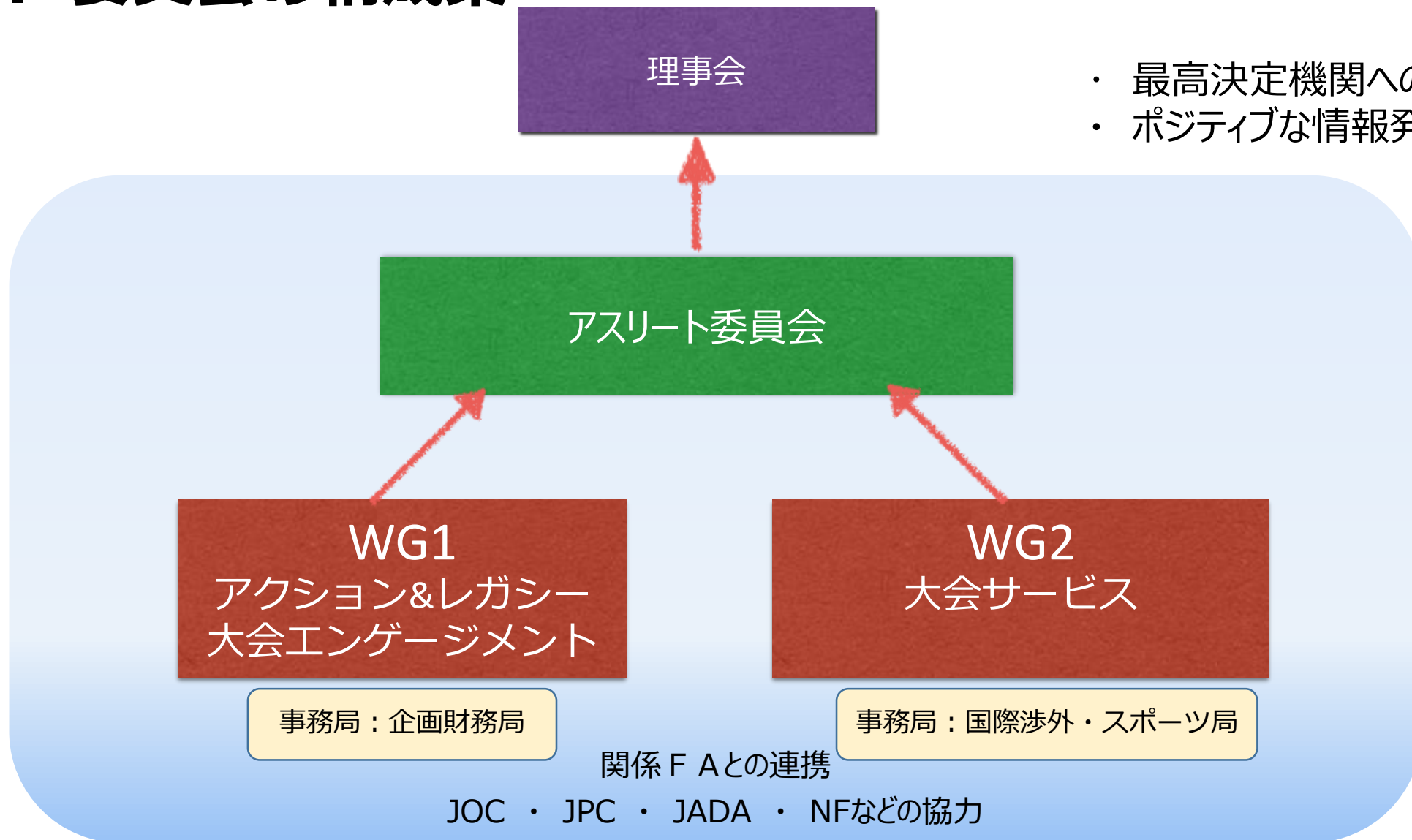
室伏 S D から、以下について提案

- アスリート委員会の下に、アスリート・ファーストの大会実現、アクション & レガシーやエンゲージメントの推進などについて、具体的な検討を行うため、2つのワーキンググループ（WG）を新設する。
- 2つのWGでの検討内容については、アスリート委員会へ報告し、委員会から理事会へ報告するほか、積極的に情報発信する。
- 11月のIOC調整委員会に、WGの体制等について報告を行う予定。

→**コーチ調整委員会委員長からも「素晴らしい提案であり、期待している」等のコメントあり。**



### 3. 委員会の構成案



- ・ 最高決定機関への報告
- ・ ポジティブな情報発信

# 4. WG 1 について

## アクション&レガシー、エンゲージメントの推進

### <所管事項>

- アクション&レガシープラン（スポーツ・健康）の推進
- 大会エンゲージメントの推進

アスリート委員会で確認した方向性等を踏まえ、具体的なテーマやアクションに関する検討を行う。

### <検討テーマ例>

- スポーツ・健康分野のレガシー創出に向けたアクション実施について
- 大会エンゲージメント活動へのアスリートの関わり方について

### <参加メンバー>

- アスリート委員のうち参加可能な委員のほか、必要に応じて、組織委員会内外の関係者を加える。

### <運営方法>

- 関係 F A と連携し、テーマに応じてWGを活用した検討や意見交換を実施
- アスリートの具体的な意見を、アクションの検討等に活かしていく

# 5. WG 2について

## アスリート視点での大会運営を実現

### <所管事項>

- 選手へのサービスレベル策定の過程でアスリートが主体的に関与し、確実な大会運営計画策定に貢献

### <検討テーマ例>

- 選手村の住環境、付帯施設、サービス <選手村、関連FA>
- 到着から選手村、会場への移動 <輸送>
- 選手村、会場での食事 <フードサービス>
- 会場での動線やラウンジ等 <スポーツ、会場マネジメント> など

### <参加メンバー>

- 近年の大会に参加経験のあるアスリート、アスリート委員、組織委員会理事、JOC/JPCアスリート委員会委員などから、議論のテーマに合わせ参加可能なメンバーが対応

### <運営方法>

- 各FAの既存の会議等にアスリートが参加し議論（アスリートが議論に参加しやすい方法・環境で行う）
- アスリートがテーマに関する課題解決に向けて主体的に取り組む

## 6. 今後のスケジュール

- リオ大会前～ WG 2 メンバー調整開始
- リオ大会中～ WG 2 活動開始（現地でのアンケート調査等）〈予定〉

〈調査項目(予定)〉

空港での手続き、空港から選手村到着まで、選手村での生活、会場への移動、競技会場でのサービス、セキュリティー、テクノロジー、文化教育プログラム等

- 10月以降 WG 1・2 随時活動（テーマに応じた検討等）
- 11月中 IOC 調整会議にて、WG発足等について報告